



GlycoNex 社と北海道大学病院

胃癌に対する次世代 ADC 開発を加速する共同研究を開始 ～がん糖鎖抗原標的 ADC である GNX1021 を First in Class の新規胃癌治療薬として開発 するための臨床基盤の構築を目指す～

【ポイント】

- 既存の治療薬が奏功しない難治性・再発胃癌患者などに有効な First in Class 新規がん治療薬 GNX1021 の臨床開発のための基盤構築
- 日本人胃癌患者での GNX1021 治療の有効性が期待される患者集団の解明

【概要】

北海道大学病院はがん糖鎖抗原を標的とする治療薬の開発に取り組む台湾のバイオテクノロジー企業 GlycoNex 社（証券コード：4168、以下 GNX）と共同研究契約を締結したことを発表しました。本契約に基づき、両者は協力して次世代抗体薬物複合体（ADC）である GNX1021 を新規胃癌治療薬として開発するにあたり、日本国内での今後の臨床試験を戦略的に進めるための基盤構築に取り組めます。

本共同研究では、胃癌患者における分岐型 Lewis B/Y（bLeB/Y）糖鎖抗原の発現を後方視的に評価し、既存の治療効果予測マーカーとの関連性を検討します。

北海道大学病院と GNX は、bLeB/Y を有する日本人胃癌患者の頻度とがん組織における bLeB/Y の分布を評価し、HER2、CLDN18 などのバイオマーカーとの比較をおこないます。これにより、GNX1021 の治療効果が期待される患者層を明確化し、治療成績の向上につなげることを目指します。

【用語の説明】

※1 胃癌：国立がん研究センターの統計によると、胃癌は日本で3番目に多いがんであり、がん関連死の第4位を占めています。2024年には新規罹患数が約115,100件、死亡数が約39,900件と予測されており、新たな治療選択肢の必要性が高まっています。

※2 ADC：抗体薬物複合体（Antibody Drug Conjugate）は、がん細胞などに特異的に発現する抗原に結合する抗体と、結合したがん細胞などを死滅する効果をもつ化学物質を融合した化合物です。

※3 GNX1021：GNX1021はGNX社が開発している新規ADCで、胃癌などに高発現するbLeB/Y抗原特異的な抗体と抗腫瘍作用をもつ化学物質であるモノメチルアウリスタチンE（MMAE）を融合した抗腫瘍薬候補です。

お問い合わせ先・配信元

北海道大学病院総務課総務係（〒060-8648 札幌市北区北 14 条西 5 丁目）

T E L 011-706-7631 F A X 011-706-7627 メール pr_office@huhp.hokudai.ac.jp